新聞畫會 四十

新聞とさへいへば泥坊情死
密夫の風聽或い大さへ喰
ハ奴夫婦喧嘩湯樂息子
か親不孝おど暗がりの
恥を明るみへ出しての異見ハ
能けれど年ゝの行ゐ者共ハ却て
世間の常と思ひまゝ流行致さんとと
今度ハ本まの勸善の助けと成べきを笑ひ出す
大阪第三大區十二小區裏新町一丁目佐藤又七なる者二人の男子
常二郎芳二郎十二年と九年なるを早くより學校ハ入れ日々
勤學怠らせず二子ハ勝れて出精せしゆへ八年七月九日ハ方今の
御趣意厚相心得子分なして日々無懈上校勤學爲致候段奇特の
事とあつて御褒詞を崇りしと是両親の平常心得方宜く子を
育つるの道を知るが故なりしるして常二郎の常ハ非ざる美志と芳二郎の
芳ばしき名を世間の悪さ汁せる子供や今の世を誹る頑陋親蔭ハ示
さんと筆を執る者ハ堀江川の邊りハ住む　舟木の翁ゝ山人

八重亭板

二代目歌川豊国画

新聞図会40号　文庫10-8069-33
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library